

道徳学習指導案

指導者 T1 吉田正信
T2 原 昌弘

- 1 日時 令和3年2月17日（水）第4校時
- 2 学年 第2学年1組（男子10名，女子16名，計26名）
- 3 場所 2年教室
- 4 主題名 将来に向かって〔内容項目 A-3 向上心 個性の伸長〕
- 5 ねらい 奥愛次郎が夢に向かって努力する姿について考える活動を通して，その人固有の良さの発見と自己受容・自己理解に努め，自分らしさを発揮できる生き方を求めようとする道徳的実践意欲を培う。
- 6 教材名 「日彰館 館祖 奥愛次郎 物語」より抜粋

7 主題設定の理由

○主題観

本主題は，内容項目 A，「主として自分自身に関すること」の「自己を見つめ，自己の向上を図るとともに，個性を伸ばして充実した生き方を追求すること」にある。

「自己を見つめ」とは，様々な行為をする主体である自己について深く省みることであり，その過程において一貫した自分の姿や将来像を思い描くことに繋がる。

これまでや現在の自分，そして将来こうありたいという自分を静かに見つめ直すことは，自己の向上を願って生きていくうえで重要なことである。

「個性を伸ばす」とは，固有の持ち味をより良い方向へ伸ばし，より輝かせることである。自分自身で嫌だと思っているところも，見方を変えて磨きをかけることで，輝く個性になりうるのである。個性を生かし伸ばしていくことは，夢や目標に向けて，自分の人生への前向きな取り組みを繰り返す中で自ずと体得される，自分の生涯をかけての課題でもある。

○生徒観

省略

○教材観・指導観

教材の主人公である奥愛次郎は、吉舎中学校区に所在する日彰館高校の「館祖」である。本時ではその奥愛次郎の伝記的漫画である「日彰館 館祖 奥愛次郎物語」を教材として扱う。

複雑な家庭環境で育ち自身に対して否定的な愛次郎少年が、学問の師と出会い更生していく。その中で「教育者になりたい」「へき地に住むものでも貧しいものでも誰でも学べる学校を作りたい」という夢を持つ。その夢を実現させ、全ての情熱を注ぎ、幾多の困難を乗り越え、日彰館を守り抜いた。その奥愛次郎の人生を通し、夢に向かって挑戦し、自分らしさを発揮できる生き方を求めようとする意欲を育てたい。

生徒の実態をふまえ、ねらいを達成するために、指導に当たっては次のように工夫していきたい。

- ・資料提示は、イラストなどを提示することにより場面を確実に把握させる。
- ・掲示や板書、机間指導などを、T1とT2が分担することで能率よく展開する。
- ・グループトークの結果はホワイトボードを活用し、視覚的に把握しやすくする。
- ・道徳性の発達段階を事前に把握しておく。
- ・グループトーク・クラストークを取り入れ、道徳性の発達段階の異なる生徒どうしの相互作用によって思考を深めさせる。
- ・自分の考えをもたせ（自己決定）、それを集団の中で表現させ（自己存在感）、それぞれの良さを感じさせる（共感的人間関係）という、生徒指導の三機能を意識した学習展開をしていく。

8 指導のポイント

ステップ	学習展開	ステップの視点	本時の工夫
1	導入	【チャレンジ】 ○課題把握 ○動機づけ（価値または教材）	○「吉き舎り道徳学習プログラム」の流れを生かした価値への動機づけ。
2	展開 (中心発問)	【考えをあきらかにする】 ○考えの根拠の明確化	○道徳ノートへの記述 ○ネームプレートの表示
3		【さらに問いを見つける】 ○自他の意見への問いの連鎖	○生徒の考えから次の問い（課題）の発見
4		【未来に広げる】 ○自己との関りを深める工夫	○日常生活へ広げる言葉がけ
5	終末	【学習を振り返る】 ○価値の一般化、自らの生き方への意欲付け	○学習の振り返りから評価する。 ○「吉き舎り道徳学習プログラム」の流れを生かした次時への意欲付け。

吉舎(きさ)と未来（考えをあきらかにする、さらに問(と)いを見つける、未来に広げる）

9 個性の伸長に係る各学年の指導の観点

低学年	自分の特徴に気付くこと。
中学年	自分の特徴に気づき、長所を伸ばすこと。
高学年	自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。
中学校	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。

10 『吉き舎り道徳学習プログラム』

吉き舎りプログラム名	みんながよりよく暮らせる社会を築くためにはどうすればよいだろう？	
めざす資質・能力	共感力・コミュニケーション能力・表現力	
めざす児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の在り方と集団生活のきまりを理解する ・規律ある安定した社会の実現に努めようとする生徒 	A…自主，自律，自由と責任 B…相互理解，寛容
ねらい	対話的な学びを通して，他者と対話したり，協働したりしながら，多面的・多角的に法や規則の意義を捉え，守ろうとする実践意欲の育成。	C…遵法精神，公德心

みんながよりよく暮らせる社会を築くためにはどうすればよいだろう？

過程	生徒の意識の流れ	道徳科	教科・領域・行事
発見・気づき	○互いに認め合う 友情を育むことで、互いの個性や能力を高め合うことができる。	道徳科 教材名「ライバル」 B-8 友情，信頼 【ねらい】尊敬と信頼に支えられた友情について理解し，互いに高め合える友情を育もうとする態度を育てる。	総合的な学習 ◎修学旅行に向けて 班で協力して課題を解決することでコミュニケーション能力や現状を分析する能力を高める。
思考	【問い】自分の生き方を考える時に大切にしたい事は何だろう。	道徳科 教材名「館祖 奥愛次郎物語」(本時) A-3 向上心 個性の伸長 【ねらい】その人固有の良さの発見と自己受容・自己理解に努め，自分らしさを発揮できる生き方を求めようとする道徳的実践意欲を培う。	総合的な学習 ◎進路に向けて 自分の個性や将来の夢を見つめ，自己実現のために必要な課題を発見し解決する能力を高める。
実践意欲	○一人一人の個性を理解し，夢に向かって努力することが大切だ。		

1 1 準備物 イラスト、道徳ノート、ホワイトボード、パソコン、モニター

1 2 学習展開

	学習活動	主な発問と予想される生徒の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導 入	本時の学習について考える	○「日彰館を作った人」って、誰でしょう？ ・分かりません ・奥愛次郎です	○吉き舎り道徳学習プログラムとの関連を生かし、価値への動機付けとさせる。
展 開	【考えをあきらかにする】 (1) 状況を確認する。	○泣いている時の愛次郎はどんな気持ちだっただろう。 ・悲しい。 ・生きている意味がない。	○モニターを用いて少年期のエピソードを紹介する。 ○泣いている場面を黒板に掲示する。 ○指名で数人に発表させる。 ○夢に向かって努力し始める前の、愛次郎の不安定な心理に共感・把握させる。
	【さらに問いをもつ】 (2) 夢に向かって努力する人の心情について理解を深める。	◎夢に向かって挑戦する中で、愛次郎は何を考えていたのだろうか？ ・夢を実現したい ・病気や困難に負けられない ・学校を作りたい ・教師を見つけない	○モニターを用いて苦難の中で日彰館設立に向けて奮闘する愛次郎のエピソードを紹介する。 ○設立に向けて奮闘する愛次郎の姿を黒板に掲示する。 ○個人で考える グループで議論する 全体で共有する ○愛次郎が自分の夢を持つことで強い意志を持ち、向上への意欲が高まったことを把握させる。
終 末	【未来に広げる】 (3) 自分の生活を振り、未来へ広げる考えを見つける。 (4) 振り返りをする。	○自分の「将来の夢」を書いてみましょう。 (補助発問) はっきりした夢がない場合は、「将来どんな大人・社会人になりたいか」を書いてみよう。 ○今日の授業で考えた事を、ノートに書いてみましょう。	○道徳ノートに記述させ、自分の考えに向き合わせる。 ○学びを振り返らせ、道徳ノートに記述させる。 ☆自分らしさを発揮できる生き方を求めようとする道徳的実践意欲を持っている。(発言・ノート)